様式第5号(第9条関係)

# 論 文 内 容 の 要 旨

| 報告番号 | 空　欄 | 氏　名 | 森戸 啓統 |
|---|---|---|---|
| Increased ratio of FoxP3+ regulatory T cells/CD3+ T cells in skin lesions in drug-induced hypersensitivity syndrome/drug rash with eosinophilia and systemic symptoms<br><br>薬剤性過敏症症候群(DIHS)の皮疹部においてCD3陽性T細胞数に対するFoxP3陽性制御性T細胞数の割合は増加している | | | |

論文内容の要旨

背景)

薬剤性過敏症症候群(DIHS)/ drug rash with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS)は、発熱や多臓器障害などの全身症状を伴う重症薬疹の一つである。発疹の出現に加え、ヒトヘルペスウイルス6(HHV-6)の再活性化、多臓器障害及び低ガンマグロブリン血症を伴う点が移植片対宿主病(GVHD)と類似性がある。しかし両者の皮疹の性質には大きな相違点がみられる。具体的には DIHS/DRESS では通常表皮壊死を伴わないが、GVHD には表皮壊死が認められる。しかしこれまで、両者の皮膚症状が異なる理由は知られていなかった。

目的)

DIHS/DRESS と GVHD の間で皮膚症状が異なる理由を明らかにするために、皮疹部へ浸潤する制御性 T 細胞(Treg)に着目して、その動態を検討した。

方法)

DIHS/DRESS 12 例、GVHD 12 例、紅斑丘疹型薬疹(MDE) 18 例の3群について皮疹部の生検組織を用いて、FoxP3 染色により Treg の皮疹部への浸潤を解析した。同時に CD3, CD4,CD 8 陽性 T 細胞の浸潤についても免疫染色により検討した。

結果)

DIHS/DRESS の皮疹部における CD3 陽性 T 細胞数に対する FoxP3 陽性 T 細胞数の割合は GVHD 及び MDE と比し優位に増加していた。一方、この 3 群において皮疹部における CD3 陽性 T 細胞数には優位な差がみられなかった。また DIHS/DRESS の急性期において、皮疹部における CD3 陽性 T 細胞数に対する FoxP3 陽性 T 細胞数の割合は発症からの日数に伴って増加していた。しかし GVHD 及び MDE については、皮疹部における FoxP3 陽性 T 細胞数の割合と発症からの日数との間に相関はみられなかった。

結論)

DIHS/DRESS と GVHD には類似性も多いが、皮疹部における Treg の動態は異なることが判明した。DIHS/DRESS では急性期に Treg が多数浸潤することにより、表皮障害が抑制されている可能性が推測され、皮疹部における Treg の浸潤の相違が両者の皮膚症状の違いに影響を及ぼしている可能性が示唆された。